

上町の窪田阿蘇神社からスタートした神輿は最終地点の古宮（上陣内）に里帰りしました。

※地域の中では「御幸祭」とも呼ばれています。



## 地域は「人」で守られている。 地域力を育むために伝統を守る。



とくなが 浩二さん(陣内)

昭和57年に復活し、10年に一度開催している窪田阿蘇神社御神幸祭。祭りを主催する窪田阿蘇神社御神幸祭実行委員会の徳永実行委員長に伝統を守り続ける思いをクローズアップする。

室町時代に始まったと言われる祭りは、長い歴史の中で一時途絶えていましたが、伝統を守るために復活を図ったのが徳永さんを含む陣内地区の住民だった。徳永さんは23歳で初めて祭りに参加し、見どころの一つである下陣内地区の大名行列の先頭を担った。「踊りや歌の資料は何も残っておらず、祖父や地域に住む人たちの記憶を頼りに祭りを復活させました。初めて参加したときの記憶は今でも鮮明に覚えています。準備は大変でしたが、それよりもはるかに達成感が大きかったです。沿道に集まる地域の人たちの喜ぶ笑顔を見たときに、みんなが一つのものに夢中になれる祭りを開催できたことに感動しました」と伝統を守り続けることに誇りを持つ徳永さん。

今年で5回目の開催。時代に合わせて掛け声は変化しているが、踊りは変わっていない。「祭りには踊り子や準備に300人以上の老若男女の地域住民が関わっています。祭りの文化を守ることは大切ですが、祭りを通じて地域のみんなが一つのものを作り上げることに価値があると思うんですね。熊本地震のように、何かあったときに地域の中で助け合えるつながりを持つために、日頃から地域のコミュニティづくりが大切です。そのつながりを築く一つに祭りがあります。地域の子どもたちが住んでいる地域に誇りを持ち、住み続けたいと思える地域を残していくのが私たちの使命です」と話す徳永さんは生まれ育った地域の伝統を受け継ぎたい。

### ついでの声

窪田阿蘇神社御神幸祭の取材をして、幼い頃に稚児行列に参加した牛若丸・弁慶の行列を見た記憶を思い出しました。幼い頃の記憶なのであまり覚えていなかったのですが、地域の人々も一つのことに夢中になれる祭りであったことは子どもながら覚えていました。大人になって見る祭りはより楽しく、伝統を守り続ける人たちの思いに触れ、次の祭りが待ち遠しいです。▼大津町の町花つつじの見ごろを迎えました。つつじにはさまざまな色や模様がありますが、私は花びらが小さくピンク色のつつじが好きです。皆さんはどんなつつじが好きですか？

(SU)



UD FONT  
見やすくて読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報

# おおづ

5

MAY.2023

広報 おおづ

2023 5

発行・編集 ■大津町・総合政策課  
〒869-1292 熊本県菊池郡大津町大字大津 1233 番地  
TEL.096(293) 3118 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/> ※広報おおづは随所に収録して再生機と補助機を併用しています。

### 今月の表紙

窪田阿蘇神社御神幸祭の一コマです。当日は晴天に恵まれ、多くの見物客が詰めかけました。沿道からは、参加者たちにたくさんの拍手と声援が送られていました(2頁参照)。

### 今月のみどころ

- P2 10年に一度の窪田阿蘇神社御神幸祭
- P3 副町長就任退任のあいさつ/新規採用職員紹介
- P4~P6 令和5年度人事異動
- P8 大津町まちづくり町民懇談会を開催します!